

(様式1)

自己評価表

川之江高等学校(全日制)

学校番号(1)

教育方針	(1) 豊かな知性と創造性、果敢な積極性を育てる。 (2) 自他を敬愛する人権尊重の精神と誠実な人間性を育てる。 (3) 豊かな情操と感性、たくましい体力を育てる。 (4) 国際的な視野に立ち、変化に対応できる柔軟性を育てる。 (5) 地域社会に貢献する意欲と実践力を育てる。	重点目標	予測が困難で変化の激しいこれからの時代を「生き抜く力」の育成 －「本気」「全力」「共感」そして「感謝」－
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	家庭学習習慣の確立	週当たり1年20時間・2年25時間・3年30時間 各目標時間の A: 100%以上 B: 90%~ C: 80%~ D: 70%~ E: 70%未満	E	週当たり学習時間の目標に対する割合 第1学年 13.9/20時間 69.8% 第2学年 15.5/25時間 62.0% 第3学年 20.4/30時間 67.8% 全学年 49.8/75時間 66.4% どの学年においても70%を超えられなかったものの、3学年の文A・理Aについては目標を達成した。	2学期になって、1学期よりも学習時間を伸ばしたクラスが6クラスに留まっている。また、進路を決めた生徒が多い3学年は、類型によっては学習時間の減少が大きい。類型に応じた課題の設定や進路指導とともに、自己の成長を感じさせる工夫を試行錯誤し、生徒の学習意欲を高めたい。
	分かる授業、主体的に学ぶ意欲を育てる授業の実践	授業公開、研究授業、相互授業参観等を通じた授業改善への取組 A: 100% B: 90%~ C: 80%~ D: 70%~ E: 70%未満	A	100%の教員が授業改善依取り組んだと回答 日頃から分かる授業の実践の為、相互授業参観を積極的に実施し、授業研究、教材・教具研究を行い授業改善依努めている。また、1人1台端末を有効に用いた授業は生徒たちにも好評であった。中学校への出前授業はコロナ感染症対策のため実施できなかった。	本年度もコロナ感染症対策のため、公開授業や研修会等が中止やオンラインに変更になった。来年度は校内外の授業改善に関する研修会等に積極的に参加していきたい。また、中学校への出前授業は、川之江南・北両中学校で実施させていただきようをお願いしたい。
	AI時代に対応した学力の育成	読解力を伸ばすための授業内容の工夫、授業展開におけるICTの導入 A: 100% B: 90%~ C: 80%~ D: 70%~ E: 70%未満	A	100%の教員が、読解力の工夫やICTの導入に取り組んだと回答 本校では5分前登校をさせ、毎日10分間朝読書を行っている。教科の特性にもよるが、日頃から1人1台端末を活用した授業を実施している教員が多くいるが、1月の臨時休校時から、全クラスに対してオンライン授業およびハイブリッド授業(対面+オンライン)を行った。	情報課のリーダーシップにより、リモート授業や、1人1台端末の運用・管理などが積極的かつ適正に行われた。次年度も多くの場合でICTが有効に活用されるように教職員研修を行ったり自己研鑽に努めるようにしていきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	確かな学力の修得と進路実現	進学率100%、国公立大学合格者50名以上 A：50名以上 B：40名～ C：30名～ D：20名～ E：20名未満	D	国公立大学24名合格	高校入学時から国公立大学への進学希望者が減っている。入学時から、学ぶ意欲を高め、高い目標を持たせて進路実現に向かわせる指導が必要である。
		就職率100% A：100% B：90%～ C：80%～ D：70%～ E：70%未満	A	就職希望者35名中35名内定 昨年度に続きコロナ禍においても、四国中央市の雇用情勢は大きく崩れることなく、希望者全員が内定をもらうことができた。	次年度も生徒の就業意欲の醸成に努め、就職率100%を維持したい。
人権教育・生徒指導	自他を尊重し、互いの人権を認め合う態度の育成	人権意識を高め、いじめを起こさないための取組：年間8回以上 A：10回 B：9回 C：8回 D：7回 E：6回以下	A	人権に関する講話や講演、アンケート、集会やホームルーム活動での呼びかけ等を10回以上行った。小さな問題も見逃さない姿勢で未然防止に取り組んでいる。	感謝する心を養い、人権意識の高揚に努める。いじめ認知を積極的に行い、生徒の小さな変化も見逃すことなく、安心安全な学校づくりを行いたい。
		異校種間・異世代間交流学習：年間6回以上 A：8回以上 B：7回 C：6回 D：4～5回 E：3回以下	A	「保育体験学習」5回「中学校での活動発表会」2回「オープンスクールでの中学生との座談会」1回「愛媛大学との高大連携学習会」1回、合計9回実施	昨年からの中学校での体験発表会は定着しつつあり、中学生および先生方にも好評で来年度以降も続けていきたい。今後も愛媛大学との学習会など異校種間・異世代交流学習をできるだけ多く実施していきたい。
	公共性とコミュニケーション能力の育成	交通事故発生件数：年間0件 A：0件 B：1～3件 C：4～5件 D：6～7件 E：8件以上	C	5件 今年度、市内3高校と警察との間で交通安全に関する協定を締結した。警察とともに交通安全講話や交通安全教室、登校マナー指導を積極的に行った。左側車道通行の実施率は、ほぼ100%である。	交通事故防止に向けた取組を継続して行う。交通安全に対する意識、登下校時のマナーの向上に取り組む、命を守る態度を育てたい。
		出前授業、出前講座（高大連携）：年間6回以上、遠隔授業：年間6回以上 A：8回以上 B：7回 C：6回 D：4～5回 E：3回以下	A	出前授業、出前講座 8回以上 遠隔授業 8回以上 コロナ禍により、外部講師等を招くことが困難な状況が続いたが、実施形態を工夫しながら講座を実施した。	オンラインによる講義や授業も実施できるようになり、以前よりも内容が充実してきた。来年度は内容の精選を行いながら、より効果的な活動となるように工夫したい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
特別活動	個性と能力を生かした心身の鍛錬	部活動加入率75%以上 A：100% B：85%～ C：75%～ D：65%～ E：65%未満	C	部活動加入率 78.1% 総数では、昨年度の77.9%から若干増となった。学年別では、1年生は男子85%、女子92%の入部率であるが、2年生は、昨年の活動制限の影響からか入部率が大幅に下がっている。	年度当初の部登録時に部活動の魅力、継続することの大切さを訴える工夫をしたい。また、生徒数減少、教員数減少により、存続が困難な部も出始めているため、生徒のニーズに答えつつ、部の精選についても検討していきたい。
	地域に生き、地域を愛し、地域とともに歩む心の育成	ボランティア活動・地域行事への参加：年間1人2件以上 A：3件以上 B：2.5件～ C：2件～ D：1件～ E：1件未満	E	0.7件（参加生徒延人数378名） 感染拡大等による影響で、ボランティア活動・地域行事についても、中止・規模縮小などによる実施などで、募集人数自体が少なかつた。そのため、例年並みの希望者はあつたが、やむを得ず3年生優先での参加となつた。	昨年から、感染拡大の影響で、ボランティアの参加機会が減少しているため、現地参加型の活動以外に、コロナ禍においても実施可能な本校独自のボランティア活動を工夫したい。
業務改善	働き方改革の推進と職場環境の整備	業務の効率化による勤務時間外労働の削減：昨年より年間20%以上削減 A：40%以上 B：30%～ C：20%～ D：10%～ E：10%未満	C	勤務時間外在校等時間（9月～12月平均）昨年度68.4h、本年度48.4h、29.3%減であつた。ICTを活用する等して、業務の効率化に効果があつた結果となつた。	今後も更に業務の効率化を図るため、ICTの研修等を行つたり、教職員の意識改革を図るための研修会や声掛けを行つていきたい。
		心身ともに健康であるためのメンタルヘルスケアの充実	C	職員室以外の準備室に冷暖房設備の整理を行つた。職員休憩室の利用を教職員に促した。帰宅時間が遅く、疲れが十分に取れていない教職員がいる。	ストレスに感じることを相談しやすい職場環境作りが必要である。また、年次有給休暇の取得しやすい雰囲気作りにも努めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があつた B：かなりの成果があつた C：一応の成果があつた D：あまり成果がなかつた E：成果がなかつた）とする。